

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 景気ウォッチャー調査(2017年6月)

発表日 2017年7月11日(火)

～現状、先行きともに50の水準に到達～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 エコノミスト 齋藤 麻菜  
TEL : 03-5221-4573

	景気の現状判断(方向性)(季節調整値) 合計				景気の先行き判断(方向性)(季節調整値) 合計					
		家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連		家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連		
2016年	5	41.7	40.1	43.7	47.9	45.4	44.1	46.8	51.0	
	6	41.2	40.0	42.0	47.5	40.5	40.4	40.3	41.8	
	7	43.8	43.0	43.7	49.6	46.9	46.7	46.9	48.3	
	8	46.0	44.2	48.3	52.5	48.6	47.9	49.1	52.3	
	9	46.3	44.2	49.0	54.1	49.4	48.5	50.4	53.1	
	10	48.4	46.6	50.4	56.4	50.3	49.3	51.0	55.0	
	11	51.4	50.3	52.1	57.1	51.3	50.3	51.8	56.1	
	12	51.4	49.5	53.6	58.9	50.9	49.9	50.9	57.1	
	2017年	1	49.8	48.8	50.9	54.3	49.4	48.8	50.2	51.8
		2	48.6	47.3	49.9	53.9	50.6	50.0	50.5	55.6
		3	47.4	46.2	48.2	53.4	48.1	47.4	48.8	51.6
		4	48.1	46.9	48.5	54.8	48.8	47.7	49.6	53.8
5		48.6	46.9	51.5	54.2	49.6	48.3	51.3	54.8	
6		50.0	48.1	52.5	57.2	50.5	49.6	52.1	53.0	

(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

## ○現状判断D I、先行き判断D Iともに改善

内閣府から発表された6月の景気ウォッチャー調査(季節調整値)(調査期間:6月25日～月末)では、現状判断D Iは前月比+1.4pt、先行き判断D Iは同+0.9ptとともに上昇し、好不況の分かれ目となる50の水準に到達した。50まで改善するのは現状では6ヶ月ぶり、先行きでは4ヶ月ぶりとなる。客単価の上昇や天候の良さが現状判断の改善につながった。先行き判断については、今夏の猛暑予想やインバウンド消費への期待から改善となった。また、これまで押し下げ要因となっていた世界情勢への不安感が一旦落ち着きを見せたことも、先行きの改善につながった。

## ○現状:雇用部門の改善が全体を押し上げ

現状判断D I(季節調整値)の内訳をみると、家計関連D Iは前月差+1.2pt、企業関連D Iは前月差+1.0pt、雇用関連D Iは同+3.0ptと、全ての部門で改善となった。

家計部門のコメントを見てみると「一時期に比べると高額商材に対する顧客の関心が戻ってきているのか、宝飾品やブランド品などの売上が伸びてきている。また、低調であった婦人服でも、前年を上回るショップが出てくるなど全体的に購買意欲が高まってきている。食料品も、催事で話題の商品を展開すると、行列ができるなど好調である(百貨店)。」や「特選ブランドや時計・宝飾等の高額品の動きが顕著であるとともに、インバウンドによる訪日観光客によって化粧品等の消費財の動きが大きく、売上全体をけん引している(百貨店)。」など、高額商品への消費意欲が回復し、客単価の上昇に繋がったことを好感するコメントが

多く見られた。また、「梅雨に入っても、例年になく天候の良い日が続き、人出が多い。人の流れが良く地域も活性化して、売上が増加している（商店街）。」といったように、天候要因によって客足が増加したことも判断を改善させている。一方で、「消費を動かすマインドが警戒感を払拭できないでいるように思う。酒類の値上げ報道の前から、原材料費の値上げによる商品価格の上昇もあり、消費者の財布のひもはより固くなってきている。繁華街の飲食店の様子を見ても、活気がある店はごく一部である（住関連専門店）。」など、商品の値上げなどによる消費の手控えを懸念するコメントも引き続き見られた。

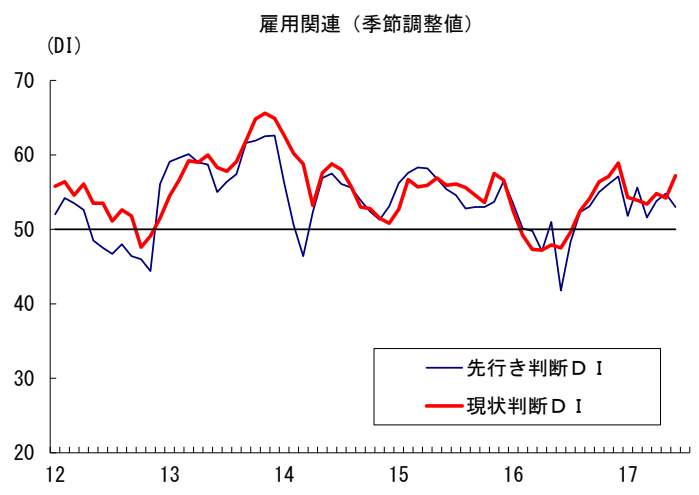
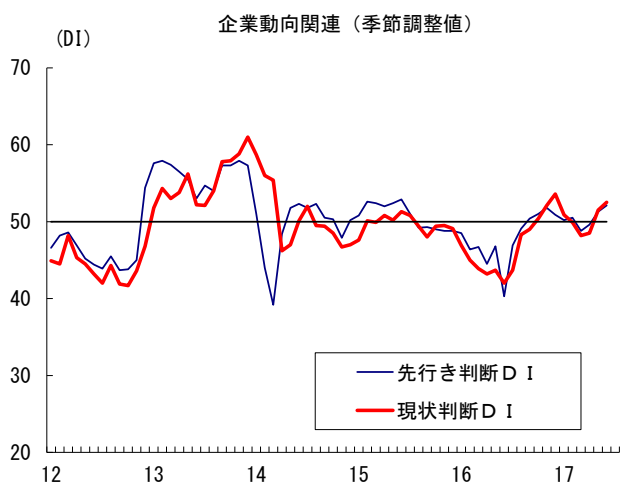
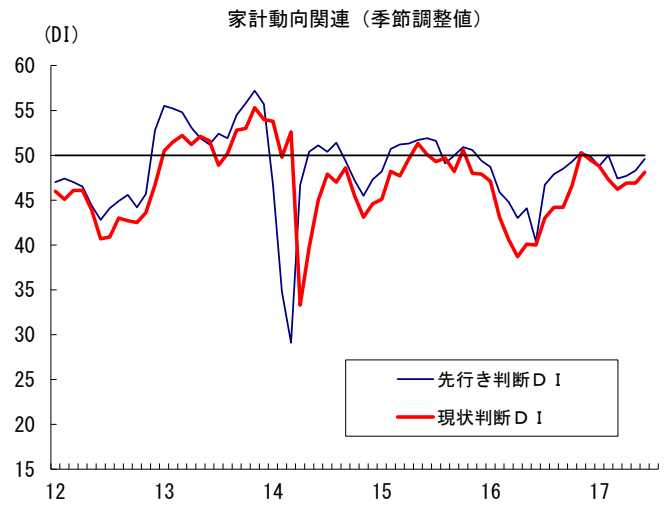
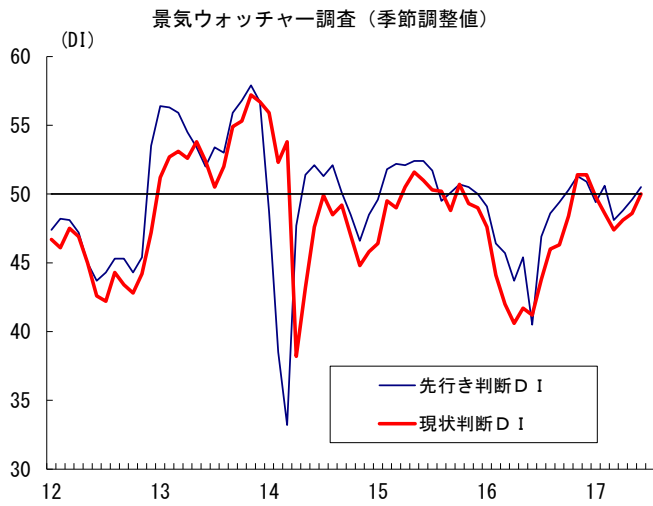
企業動向関連は、製造業（同+1.1pt）、非製造業（同+1.1pt）とそれぞれ改善となった。企業動向関連では、「公共工事が中心で売上の95%を占めている。今年度公共工事は前年比35%増の発注で大変有難い。当社受注も前年比10%増の良いスタートとなっている。ただし、前期が厳しかった影響で、今期はまだ厳しい（建設業）。」や「新たな取引先からの引き合いが確実に増えており、新規受注に至る確度も高くなっている。既存取引先からの受注も底堅く推移してきている（一般機械器具製造業）。」といったように、公共工事および民間企業ともに受注量が堅調に増加していることを示すコメントが多くみられた。一方で、「鋼材価格の値上がり分を転嫁できていない。自動車関連では転嫁が進んでいるが、それ以外では大手ユーザーの抵抗が強い（金属製品製造業）。」や「仕入価格は今年に入ってから約20%上昇している一方で、販売価格は、競争や受注量の鈍化等で思うようには改善せず、5%ほどしか上昇していない（鉄鋼業）。」など原材料の高騰などのコスト増は依然として販売価格へ十分に転嫁できておらず、売上対比、企業の収益環境が改善していないことを示すコメントも見られた。

雇用関連は前月差+3.0ptと大幅改善となった。雇用関連では「求人数が前年同月より2.5倍増えており、求職者確保は大変ではあるが、企業の積極的な採用姿勢は依然として良い（人材派遣会社）。」といったように、求人募集の増加や企業の採用意欲が依然として高いことを示すコメントがみられた。その半面、「過去最高水準で求人受注数は推移しているが、求職者確保に苦戦し、業績としては微増にとどまる（人材派遣会社）。」や「人手不足感が拡大しており人材確保は容易ではなくなっている。限られた労働力で仕事をこなしているため、業績拡大や売上増加につながらない状態が続いている（職業安定所）。」など、求職者の確保は難しく、人手不足が業績の下押しに繋がることを懸念するコメントも散見された。

## ○先行き：雇用部門は悪化するも引き続き高水準

先行き判断D I（季節調整値）の内訳をみると、家計関連D Iが前月差+1.3pt、企業関連D Iが同+0.8pt、雇用関連D Iが同▲1.8ptと、雇用部門が悪化したものの、他項目が改善し、全体で+0.9ptの改善となった。

コメントを見ると、「猛暑が予想されているので、エアコン、冷蔵庫等、夏物家電に期待する（一般小売店）。」や「猛暑予想が出ているので、不振が続いている盛夏衣料や暑さ対策品、飲料に期待したい（その他小売）。」など今夏の猛暑予報による消費の伸びを期待する声が多くみられた。また、「前年を上回る来客数が続くなど、好調を維持している。外国人観光客の増加が大きな要因とみられ、今後も好調なまま推移する（観光名所）。」など引き続きインバウンド消費への期待度が高い。加えて、前月まで数多く見られた米国や北朝鮮等の政治・経済への懸念を示すコメントが大きく減り、世界情勢の不透明感が一旦和らいだことが先行き判断を押し上げる結果となった。ただし、北朝鮮問題については、調査後に新たな動きもあり、来月以降の先行き判断が順調に改善を続けられるかは油断禁物だ。唯一悪化した雇用判断D Iについては、「正社員採用での求人は相変わらず多いが、マッチする人材が枯渇して採用が進まず、停滞感が漂う（人材派遣会社）。」や「求人は多く出ているものの、採用者が増えていない。職種によって差が大きく、人手不足は変わらない（職業安定所）。」といったように、人手不足による求人数の増加は見込まれるものの、ミスマッチから採用数が伸びない現状が続くとの算段が雇用判断を押し下げたようだ。



(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。